

第5回在宅医療・介護連携推進のための 多職種研修会を開催しました。



10月25日(金)「第5回在宅医療介護連携推進のための多職種研修会」を医師会館講堂で開催いたしました。

今回は、映画「ピア～まちをつなぐもの～」の特別上映会で、看護師、介護支援専門員、介護職、歯科医師、薬剤師、栄養士、リハビリ職、医療ソーシャルワーカー、市・道職員など10職種68名の皆さまにご参加いただきました。

この映画は、2017年に“介護のイメージが変わった”などと話題になった「ケアニン～あなたでよかった～」の2作品目となります。本作品は、今年6月から9月まで劇場で全国一斉上映しておりましたが、北海道では、札幌、旭川、函館など主要都市でしか上映されておりませんでした。そこで映画制作会社へ苫小牧での劇場上映を交渉したのですが残念ながら叶わず、このたび多職種研修

会として特別上映会の開催をすることとなりました。

「ピア」というのは英語で“仲間・平等”という意味だそうです。

この映画は“一番好きな場所で、最後まで自分らしく、穏やかに、幸せに生きてもらう”ために、医師やケアマネジャー、訪問看護師、歯科医師、薬剤師、リハビリ職、介護職、栄養士など多職種がチーム(仲間)として連携しながら在宅医療・介護・看取りを支え、また支えられる姿を描いています。人や地域との繋がり、尊さを描く、笑って泣いて人生に前向きになれるストーリーです。



映画「ピア」上映会の様子

上映終了後、参加者の皆さまよりたくさんの感想をいただきましたので、その一部をご紹介します。

「各職種の在宅での役割や支える側の視点を改めて確認できた。」

「心が優しくなれた。連携のイメージが掴めた。」

「“みんなで支え合う世の中にならなきゃならない”というセリフが印象的だった。在宅医療についてチームの必要性を再確認しました。」

「医師が利用者さんの近くにおいて、安心して穏やかに病気と向き合っていける仲間を作る環境に苦小牧がなればよいなと思いました。」

「看取りをしていく事に虚しさのみを感じていたのですが“その人らしく”を支えてあげたい気持ちでいっぱいになりました。」

「人がどう生き切るのか、自分の好きな場所で好きな人達とどう最期を迎えるのか、本当に考えさせられました。多職種の連携がある事でここまで人としての尊厳を守り抜く事ができるのです。ぜひ苦小牧で実現させましょう。とても心が温かくなりました。」

なお、この上映会のアンケート結果もホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。(ピア製作委員会のアンケート一部抜粋)

最後に研修会にご参加いただいた皆さま、後援をいただき、さらに会員の皆様に周知、ご協力をいただきました専門職職能団体の皆さまに感謝申し上げます。

